
TUG2013

A case study:

Typesetting old documents of Japan

Ken NAKANO, Hajime KOBAYASHI
(Livretech Co. Ltd.)

Example

萬延元年三月
 鷹司殿・近衛殿・三條殿等御願御落飾被遊候様取計、其他諸大夫始何一ツ罪科無之ものを召捕、關東の差下し、夫々非道之所置いたし、専虎狼之威ヲ以天下を屏息せしめ、畿内之開港并邪教寺取建等本條約差許候得也、青蓮院宮様御英邁を奉忌御失徳有之様申觸、御寺務取放奉幽閉候所業、乍恐、玉躰も奉迫候趣顯然之あ、北條・足利之暴横之均く、不共戴天之國賊と云へし、嗚呼此儘之打過なハ、赫々たる神州、一兩年を不出、内地之奸民邪教之靡キ、彼方勢焰を助け

内八家門方將軍家ヲ補佐シ外内政ヲ修メメシ整ヘ神州ノ恥ヲ安シシ慮

皇國之奸賊平身低頭して彼か正朔を奉する事、掌の上ニ視るか如し、苟モ人心有之もの、實之痛哭長大息に不堪事ならずや、雖然、東照宮之德澤未地に際ず、御三家御一門之尾張殿・水戸殿・一橋殿・越前家・阿波家・因州家之如き、徳川家輔佐之良將も有之、外諸侯之も薩州・仙臺・福岡・佐賀・長州・土州・宇和島・柳川等天下之爲忠憤之念日夜不息、有名之諸侯も不少候得也、内之則御加門方將軍家を奉補佐専内政を脩め、外之則有名之諸侯一意之忠力を盡し武備を整なハ、神州之恥辱を一洗して、叡慮を奉要候事天地神明に誓ひ疑有まし、依之當今事態々概略を記して天下之公論折衷を待、左祖して天下を興起せんと欲する所也、周之衰る婦人すら不恤諱して周家

彼ハ徳川家ノ逆罪人神州ノ恥ヲ加フル者也

之亡事を憂しに、まして三千年余之君恩を戴き、貳百年來東照宮之恩澤に沐浴するもの誰歟報效之念ならん、草莽之小臣痛憤切齒之余、寢食を安んぜず日夜遺憾て時勢を憂しか、彼か罪惡追日増長す、豈唯、徳川家之罪人而已ならんや、實ニ神州之逆賊なり、然則天地神人同憤之時之乘し、天下諸藩之同志と同心して天下之姦賊を誅伐し、神罰を蒙らするもの也、

(巻紙)

二 三月三日 大老井伊直弼頭屈書(案)

○史料編纂所所蔵「幕府沙汰書」ハ、一、狼藉應懲録書、二、同届書別紙(彦根藩士死傷者書上)、三、水戸藩士死骸引取届ノ三通ヲ收載ス、一ト本案ト文言ノ異ナル箇所ヲ注記セリ、又應紙添付位置ハ元來ノモノカ後考ヲ要ス、

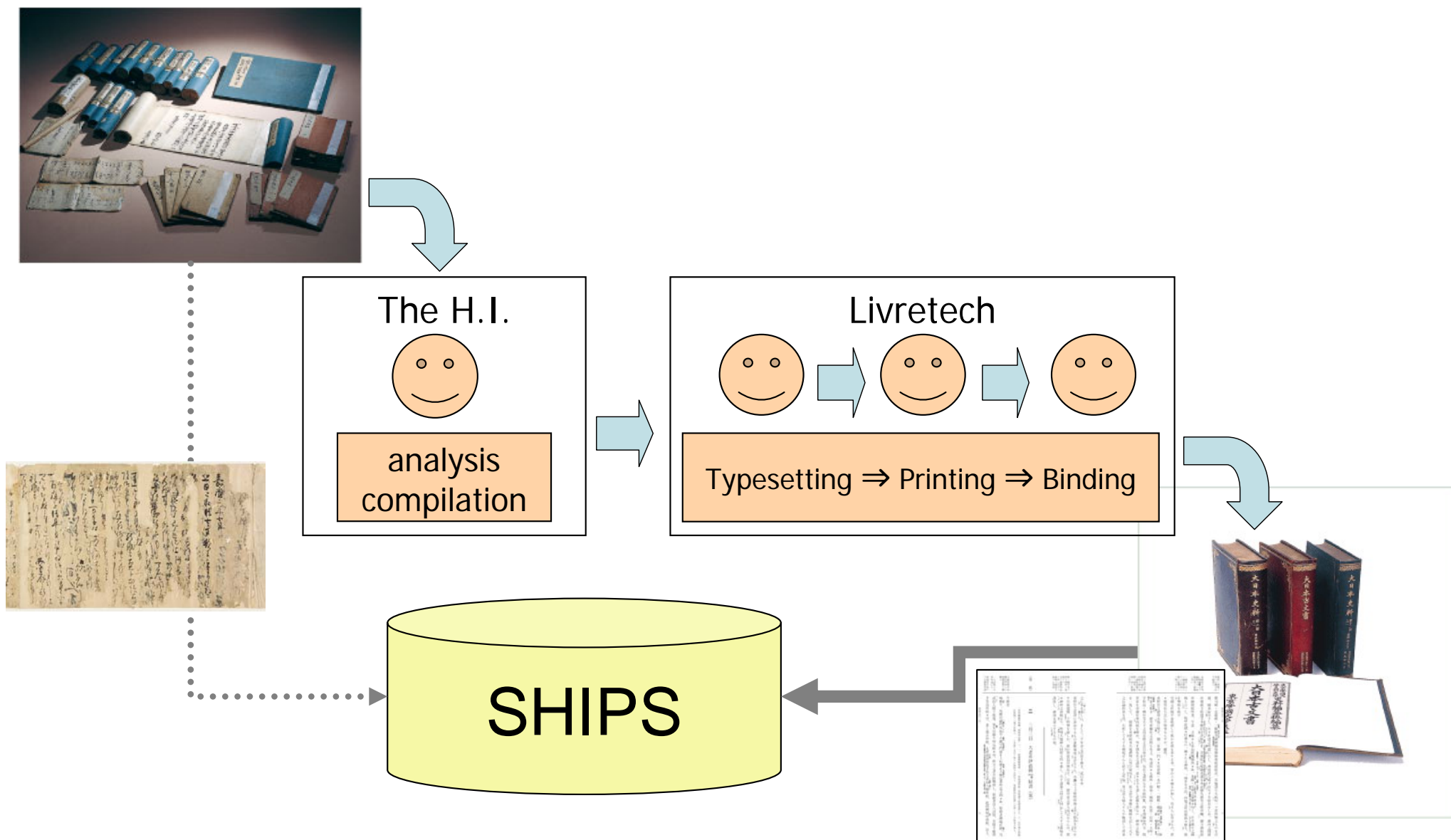
今朝登城中外櫻田門外ニテ狼藉者罵ヲ撃ス

今朝登城懸ケ、外櫻田御門外松平大隅守門前ガ上杉彈正大弼辻番所迄之間之あ、狼藉者鐵炮打掛、凡貳拾人餘り拔連、罵を目懸ケ切込候之付、供方之者共防戰致し、狼藉者壹人討留、其餘手疵深手等爲負候之付、悉く逃去申候、尤供頭初即死手負之者何人御座候、此段御届申達候、以上、

萬延元年三月

九

About this book



Topics

- How to use many characters
- How to deal with various notes
- How to make a family tree

Seiji, Ryakuji (Variant of Kanji)

既 既

Hentai-gana

ひ え 羨

Hentai-gana (Variant of Hiragana)

Original Kanji	江	者	茂
Hentai-gana	江	者	茂
Hiragana	え	は	も
Original Kanji	衣	波	毛

Bonji

邦 邦 邦

Number of glyphs in JIS code

Year	Level-1 kanji set	Level-2 kanji set	Level-3 kanji set	Level-4 kanji set	non kanji	Total
1978	2,965	3,384	---	---	453	6,802
1983		3,388			524	6,877
1990		3,390				6,879
1997			1,249	11,223		
2000				2,436	1,183	11,233
2004		1,259				

We started in 2002

Year	Level-1 kanji set	Level-2 kanji set	Level-3 kanji set	Level-4 kanji set	non kanji	Total
1978	2,965	3,384	---	---	453	6,802
1983		3,388			6,877	
1990		524			6,879	
1997		3,390				
2000		1,249			2,436	1,183
2002						
2004	2,965	3,390	1,259	2,436	1,183	11,233

Adobe released new collection

Year	Level-1 kanji set	Level-2 kanji set	Level-3 kanji set	Level-4 kanji set	non kanji	Total
1978	2,965	3,384	---	---	453	6,802
1983		3,388			6,877	
1990		524			6,879	
1997		3,390				
2000		1,249			2,436	1,183
2002	Adobe Japan1-5					20,317
2004	2,965	3,390	1,259	2,436	1,183	11,233

Adobe Japan1-5

- 20,317 glyphs
 - Including JIS2000 (11,223) + variants
- OTF package by SAITO Shuzaburo san
 - `\CID{CID-code}`

`\CID{13701}`

既

Mojikyo font (Indexfont Pro)

- 100,000+ glyphs
 - Including 400 *Hentai-gana*
 - Including 2,000 *Bonji*
- **Mojikyo package** by HONDA Tomoaki san
 - `\MO{mojikyo-code}`
- **Mjfonts package** by HOTTA Kohsaku san
 - `\TMO{mojikyo-code}`

`\MO{102632}`



steps

1. Make Japanese OTF font

ひ え 羨 愕 才 の と (total 358 glyphs)

2. Make JFM (Japanese TFM) files

3. Make package and .fd files

4. Setup DVlware

Various notes

幕府ハ無實ノ罪ニテ鷹司以下處罰ス
鷹司殿・近衛殿・三條殿等御愼御落被遊候様取計、其他諸大夫始何一ツ罪科無、捕、關東々差下し、専虎狼之威ヲ以天下を屏息せしめ、畿并邪教寺取建等本條約差許候得、青蓮院宮様御英邁を奉忌御失德有之様申觸、御寺務取放奉幽閉候所業、乍恐 玉躰も奉迫候趣顯然、北條・足利之暴横之均く、不共戴天之國賊と云へし、嗚呼此儘之打過な、赫々たる神州、一兩年を不出、内地之奸民邪教之靡キ、彼が勢焰を助け

頭注

〔實萬、前内大臣〕
三條殿等御愼御落
〔御落飾御愼〕

右注

左注

一、兩内奸賊ハニハ明ラカナルリ

内家ハ門方將軍家ヲ修外ハ諸侯武備ヲ整ヘシ州ノ敬ヲ安セン

彼ハ徳川家ノ逆賊ナリ 天下諸藩同志ト共ニ天下ヲ姦賊ニ神罰ヲ加フル者也

〔巻紙〕

書状

二 三月三日 大老井伊直弼 御書 (案)

按文

今朝登城中外櫻田門外ニテ狼藉者罵ヲ興一入討取ルモ其外逃亡ス 供頭等手自アリ右御届申達

今朝登城中外櫻田門外ニテ狼藉者罵ヲ興一入討取ルモ其外逃亡ス 供頭等手自アリ右御届申達候、以上、

之亡事を憂しに、まして三千年余之君恩を戴き、貳百年來東照宮之恩澤に沐浴するもの誰歟報効之念ならん、草莽之小臣痛憤切齒之余り寢食を安んせ道愼を時勢を憂しか、彼か罪惡追日増長す、豈唯 徳川家之罪人而已ならんや、實逆賊なり、然則天地神人同憤之時之乘し、天下諸藩之同志と同心して天下之姦賊を神罰を蒙らすもの也、

〔史料編纂所蔵「幕府沙汰書」ハ、一、狼藉應戦届書、二、同届書別紙 (彦根藩士死傷者書上)、三、藩士死傷別取届ノ三通ヲ収載ス、一ト本案ト文言ノ異ナル箇所ヲ注記セリ、又應戦添付位置ハ元來ノモノカ後考ヲ要ス、

東京大学史料編纂所「大日本維新史料 類纂之部 井伊家史料二十六」東京大学出版会, 2010, pp.8-9.
Historiographical Institute (Shiryō Hensan-jo), The University of Tokyo, "Dainihon ishin shiryō, li-ke #26", University of Tokyo Press, 2010, pp.8-9.

\頭注 : like a \marginpar

← textheight →

<p><small>井伊直弼殿 君臣義ノ御幼少ニ奉テ 君臣義ノ御幼少ニ奉テ 君臣義ノ御幼少ニ奉テ</small></p>	<p><small>君臣義ノ御幼少ニ奉テ 君臣義ノ御幼少ニ奉テ 君臣義ノ御幼少ニ奉テ</small></p>
--	--

別紙
皇國ノ夷狄擊
史ニ明カナリ

萬民ヲ安寧ナ
ラシメシムコト

井伊直弼殿
君臣義ノ御幼少ニ奉テ
君臣義ノ御幼少ニ奉テ

めん事を希而已、聊國報恩微衷を奉表、伏お天地神人の照覽を奉仰候也、

皇國千萬世 天日嗣連綿照臨し給ひて伊勢神宮も上古に替らせ給はず、神道を尊ひ武力を尙
ひ給ふ事、自然の遺風餘烈なれハ古より遠略を展給ひ、且夷狄之禍有之節ハ精々退攘し給ひ
し事、青史ニ著シク今更稱揚し奉るニ不
朝敵を征する事共、
神州之武威海外に輝し候儀人口ニ膾炙す
尊王攘夷之御志深く被爲在候を不及申上、
論置給し杯も諸蠻を畏服し覬覦之念を達
洞見したまへて洋教之禁を厳し給ふ、
ニ布給ふ事、誠ニ千古之英見卓識にて、後嗣遵奉し給ふ所也、
略之志多く出で、萬國と通信貿易し迫々小を併せ弱を制し、次第ニ境界廣大ニ相成候勢ニ乘
し屢 神州をも覬覦するに至ル、乍去打拂之令有之時も格別之事を仕出する事も不成得して

p.3

勅許も無之儀を被差許候段、天朝を奉慶如候義有之、重々不相濟事之候、追々井伊掃部頭
殿所業を致洞察候に、將軍家御幼少之御嗣ニ乗し、自己之權威を振らん爲、公論正義忌憚候
あ、天朝 公邊之御爲を深く被存人候御方々、御親藩を始公卿衆・大名・御旗本ニ不限
誣いたし、或退隱或禁錮等被 仰付候様取計候儀、夷狄跋扈不容易砌と申、内憂外患追日差
迫り候時勢ニ付、恐多くも一方被惱 震懨、御國內台平 公武御合睦彌長久之基を被爲立、
外夷之侮りを不被爲請様被遊度と之 散
候處、違背仕、猶更諸大夫始有志之人々を
おも三公御落飾御領、粟田口親王を奉幽
曲無所不至矣豈天下之巨賊にあらずや、
賊此ま、に差置候おも益 公邊之御政林を亂し、夷狄之大害を來し候儀眼前におも、實ニ天下
安危存亡ニ拘り候事共、痛憤難默止、
京師ぬも及 奏聞、今般君誅ニ代り候心得におも合斬戮候、勿論 公邊ハ御敵對申上候儀におも
毛頭無之、何卒此上 聖明之
勅意ニ基キ、 公邊之御政事正道ニ復し、尊王攘夷正誼明道天下萬民をして富穡之安ニ處し

p.2

(ii-ke#26, pp2-3)

\頭注 : split margin note

customize \@addmarginpar

textheight

別紙

萬民ヲ安テラシメテラシムコトヲ希フ

皇國ノ夷狄擊退シテカキカスルハ歴史ニ明カナリ

家康公尊王攘夷ノ御志深ク洋教ヲ禁ゼラ

家光公御徒ヲ斬殺シ給フハ千古ノ忠識ナリ近時夷狄強ク襲トナリ神州ヲ覆フ

めん事を希而已、聊州國報恩微衷を奉表、伏あ 天地神人の照覽を奉仰候也、

皇國千萬世ひ給ふ事、し事、青史朝餉を征す神州之武威尊王攘夷之論置給し杯洞見したまふ布給ふ事略之志多くし屢 神州

別紙

給ひて伊勢神宮も上古に替らせ給はず、神道を尊ひ武力を尙れハ古より遠略を展給ひ、且夷狄之禍有之節ハ精々退攘し給ひ奉るニ不

口之膾炙す、不及申上、

職之念を達

大猷卿之至り益邪徒を驅斥斬戮し三眼之明を四海早識にて、後嗣遵奉し給ふ所也、

近時之至りてハ夷狄狡謀點貝易し追々小を併せ弱を制し、次第之境界廣大ニ相成候勢ニ乗

乍去打拂之令有之時モ格別之事モ仕出する事も不成得して

東照宮終ニ其巨害あるを待す、東照宮に至り給へて、其初ハ諸蠻來航通商等をも

東照宮終ニ其巨害あるを待す、東照宮に至り給へて、其初ハ諸蠻來航通商等をも

東照宮終ニ其巨害あるを待す、東照宮に至り給へて、其初ハ諸蠻來航通商等をも

2. \setbox\@marbox
\vsplit0 to \textheight

p.3

勅許も、殿所業、あ、誣いた、迫り候、外夷之、候處、あ、曲無所不至矣、天下之巨賊にあらずや、安危存亡之拘り候事共、痛憤難默止、京師ぬも及、奏聞、今般君誅ニ代り候心得ニあ令斬戮候、勿論、公邊ハ御敵對申上候儀ニ毛頭無之、何卒此上、聖明之、勅意ニ基キ、公邊之御政事正道之復し、尊王攘夷正誼明道天下萬民をして富嶽之安ニ處し

差許候段、天朝を奉慶如候義有之、重々不相濟事之候、追々井伊掃部頭、將軍家御幼少之御嗣ニ乗し、自己之權威を振はん爲、公論正儀忌憚候、御爲を深く被存人候御方々、御親藩を始公卿衆・大名・御旗本ニ不限、或禁鋼等被仰付候様取計候儀、夷狄跋扈不容易砌と申、内憂外患追日差、恐多くも一方被惱、震、御國內台平、公武御合躰彌長久之基を被爲立、爲請様被遊度と之、散、重諸大夫始有志之人々を、栗田口親王を奉、

重之所置いたし、甚敷ニ至候、讓位之事杯迄奉醸候件々、奸、認候通ニ候、スル暴惡之姦

1. \box0 ← \@marbox

p.2

(ii-ke#26, pp2-3)

Inline note

河岸に出
 此兩村へ上合村ヨリ東
 三里余相隔居ル
 大船之

割

佐野ニテ人手ノ風聞書寫

當月九日十日
 船板船板大船
 車多船板大船
 シ水戸領上合
 村水戸領上合
 由

去ル十一日六
 戸薩江ノ詰手
 代陣屋ニテ領
 内ニ左ノ通申
 渡ノ由

萬延元年三月

大評儀之あ、公儀に相願候手段之由専ら風聞之御座候、
 右之通り承り儘、次第前後之不抱奉申上候、已上、

三月廿四日
 (三行分答旨)

八六

水戸領分常州茨城郡上合村河岸

此村方へ水戸道中小幡宿東之當り二里程有之候、且上合村ヲ始、次ニ記し候塔ヶ崎・串
 挽兩村も霞ヶ浦付候お利根川に登關宿ニ至り江戸通船相成申候、

當月九日・十日兩日夕テ板貳千枚程并船板又ハ大荷之車臺共余程此兩品之數凡船積致し、同國
 鹿嶋郡塔ヶ崎・同國行方郡串挽兩村之河岸に出此兩村へ上合村ヨリ東大船一積、侍體之もの大勢
 此人數分附添、上合に漕出し候由相聞申候

但船荷并附添人數之多少積船之行先共専ら探索中ニ御座候、

一松平大炊頭殿江戸詰手代相勤候由石井新七と申者、去ル十一日晝過比江戸表分常州茨城郡
 穴戸村江戸より凡大炊頭陣屋に著後、右役場より領内左之者に申渡候趣、

(ii-ke#26, p86)

Additional text

和宮様御縁組
内定被為納組
川宮御納得
廻ビトナル

櫻田事件ニヨ
リ御縁組引
シテ公方様ヨ
リ久世様へ御
深情仰セアル
御二思召ス

右等今ハ所司
代ヨリ御白殿
リヘ萬端内談
ア

既ニ五月二日
白叙ノ次第關
白叙ノ次第關
白叙ノ次第關
白叙ノ次第關

富一宮御方ニハ被為憂、彼是 公務御繁忙ニ付不計御延引ニ相成有之候処、猶又當春ガ右
御縁組一件 （先務或、御旨）
殿下御心配之條々速ニ被仰進候処、丙午之御干支も決（先務或、御旨）御障りモ不被為有
候ニ付、彌以

御内定被為有度旨被仰越候ニ付、先不取敢
（殿下之）
御内慮ニテ有栖川宮方御納得ニ相成、實以御手初メよろしきとて
（御干支或、御旨）
殿下ニハ一形御安悅ニテ、引續表向可被 仰越義ニ付内密可被仰越御文言御案紙迄被為
進候程ニ至リ有之候処、不存寄三月三日之御異變ニテ（御旨）の急務之
御縁談も御延引相成居候處、今度如前文
（御旨）
公方様 御深情之御次第一々御委敷 久世様へ被
仰出候御次第先以難有、於 殿下モ御大慶之御事之思召（御旨）、素々如前文御手順之御事、夫々
當時ハ猶更ニ所司代ガも實ニ御伏願なく何事モ諸事萬端
殿下へ御内談有之、十分ニ御心配被成候事ニ付、
殿下ニも一入御周旋之御手力ケニも相成、日夜御心配被為有、既ニ當月二日之件々御叡滿被
為有候御次第 若印迄御返答被 仰入候事之御座候、乍併右ニ素々有宮へ御内定被為有候
御事ニ付、手冊なしニ一時ニ

萬延元年五月

三三五

(ii-ke#26, p335)

殿下ガ
若印迄御返答被
（酒井忠義、京都所司代）

追記

Additional text

和宮様御縁組
内定御納得
川宮御納得
廻ビトナル

櫻田事件ニヨ
リ御縁組引
シテ公方様
深久様へ御
深情仰セアル
御二思召ス

右等今ハ所司
代ヨリ御白殿
リヘ萬端内談
ア

既ニ五月二日
白叙ノ次第
白叙ノ次第
白叙ノ次第

富一宮御方ニハ被爲憂、彼是 公務御繁忙ニ付不計御延引ニ相成有之候処、猶又當春ガ右
御縁組一件 （先務或、御旨）
殿下御心配之條々速ニ被仰進候処、丙午之御干支も決ふ 御障りモ不被爲有
候ニ付、彌以

御内定被爲有度旨被仰越候ニ付、先不取敢

殿下ニ
御内慮ニテ有栖川宮方御納得ニ相成、實以御手初メよろしきとて
（御干支或、御旨）
殿下ニハ不一形御安悦ニテ、引續表向可被 仰越候ニ付御延引ニ相成有之候処、
進候程ニ至リ有之候処、不存寄三月三日之御異變 （御旨或、御旨）
御縁談も御延引相成居候處、今度如前文

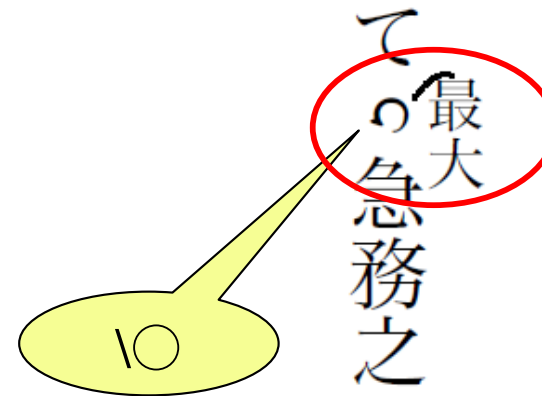
（御川家或、御深情或、御旨）
公方様 御深情之御次第一々御委敷 久世様へ被
仰出候御次第先以難有、於 殿下モ御大慶之御事之思召 （御旨或、御旨）、素々如前文御手順之御事、夫々
當時ハ猶更ニ所司代ガも實ニ御伏臆なく何事モ諸事萬端

殿下へ御内談有之、十分ニ御心配被成候事ニ付、
殿下ニも一入御周旋之御手助ケニも相成、日夜御心配被爲有、既ニ當月二日之件々御叙滿被
爲有候御次第、若印迄御返答被 仰入候事ニ御座候、乍併右ニ素々有宮へ御内定被爲有候
御事ニ付、手順なしニ一時ニ

萬延元年五月

三三五

(ii-ke#26, p335)



10 {引出線(-.1,0)(-.4,.1)(-.75,-.4)最大}

Deleted letters

人ニモ少々怪我アル由
 別紙三
 八田五郎左衛門
 付札返書
 門付札返書
 四天王寺ニテ
 自殺セシ者ハ
 高橋源太郎
 總橋受請同議
 島宅ニテ自書
 藤澤源太郎
 出奔人山崎内
 藤モ召捕レリ

自害死損候
 の姓名姓名相
 刀候、
 抹消

候、
 右之段書添奉申上候、以上、
 八様

木村斧右衛門

右紙面拜承、於四天王寺自殺いたし候ものゝ水戸殿家來の先達お出奔いたし候、
 捕方ニ被取圍難遁、差迫、右
 之及次第候儀と相聞申候、

高橋多一郎
 同 庄左衛門

生玉社地ニテ自害死損候者ハ同斷之由、
 息絶々この姓名姓名相乗候迄の
 言舌不相刀候、

藤澤源太郎

右之通之御座候、余類も立廻居可申哉之付爲穿鑿出張、今朝に至一先歸宅休息申御使之
 運答、其上右取調之相懸り罷在、略報御推免可被下候、

三月廿四日

八田五郎左衛門

猶々前同斷出奔之由山崎獵藏・水戸郷土内藤幸助、昨日當方へ召捕申候、以上、

萬延元年三月

七七

(ii-ke#26, p77)

Deleted letters

人ニモ少々怪我
アル由

別紙三
八田五郎左衛門
付札返書寫
門付札返書寫
四天王寺ニテ
自殺セシ者ハ
高橋愛詞同談
總橋

島宅ニテ自書
シ掛ヒシ者ハ
藤澤源太郎ナ
リ

出奔人山崎内
藤モ召捕レリ

候、

右之段書添奉申上候、以上、

喜八様

備紙ニテ
用五郎左衛門付札返書

備紙面拜承、於四天王寺自殺いたし候ものゝ水戸殿家來の先達お出奔いたし候、

捕方ニ被取圍難遁、差迫、右
之及次第候儀と相聞申候、

生玉社地にお自害死損候者ハ同斷之由、
息絶々にお姓名相名乗候迄にお

言舌不相分候、

右之通之御座候、余類も立廻居可申哉之付爲穿鑿出張、今朝に至一先歸宅休息中御使にお
運答、其上右取調之相懸り罷在、略報御推免可被下候、

三月廿四日

八田五郎左衛門

猶々前同斷出奔之由山崎獵藏・水戸郷士内藤幸助、昨日當方へ召捕申候、以上、

萬延元年三月

七七

木村斧右衛門

高橋多一郎
同 庄左衛門

藤澤源太郎

(懸紙ニテ抹消)
喜八様

困み

(ii-ke#26, p77)

Sign of brushup

有之、右故是迄御承知之御事、此度亦夷船打拂ヲ

外國 只今惡謀申立之種と相成候

長岡之參會、

故有之、右故是迄御所置方甚六ヶ敷有之事は愚存

追記
抹消
追記
抹消
追記
抹消

抹消

を是迄御承知之御事、

又高家幕府ニ
迅速フ御座置
テ速カラス水戸
處分アル苦心
アリタシ
關白様ノ御勤
グ願ヒ申上

萬延元年閏三月 一四八

（家數五年八月日、勅諭申下度、右故是迄御所置方甚六ヶ敷有之事は愚存、長岡之參會、**故有之、右故是迄御承知之御事、此度亦夷船打拂ヲ**右と致し候事、同様之發計ニ申上、早く億兆之倉生ヲ土炭ニおとし不申内御所置有之候様ニと相願候事ニ御座候、右之通之次第ニ付、最早不遠何と敷御發し可相成候間、返ス／＼も京地之処無御油斷御用心偏も奉願候、何分此御時節ニ至候ハハ色々御六ヶ敷事も出来可申候へ共、殿下御在職ニ無之ハハ此上如何様之變事出来も難計候間、乍恐御難苦之御中ニあも天下之爲ニ御勤續被爲在候様奉願候、

閏三月二日 長野

鳴田左近様

(ii-ke#26, p148)

Masked character

右
御禮

「アミゲタ」

命ゼラル
相宮様ノ件御
領地ノ件ハ後
便ニテ言ハス
江戸ハ其後變
無シ
惡謀共水戸ハ
勅諭降下成ハ
關白様退ケル
色々心配ナリ

披露申上、尙又重役へも申達し候処、段々御懇之
台意于今不始于今午御事、御誠實之
台慮深重難有仕合候、御報告語候共大海之一滴も及兼、唯々落涙候段難有仕合奉存候之
外無之、右御禮御挨拶三浦内膳上京迄も不取敢後閑彌太郎可申上候へ共、尙拙子か
も宜申上之旨御報告有之、重役も同様吳々被申付候間、宜御取締ひ言上被成下度奉頼候、
一將亦當地之模様申上候様被仰下、右々先達お來度々申上候間、最早御承知被下候事と奉存
候、其後何も相變候義ハ無之候へ共、先日惡謀と思敷者之密話之、齋藤彌九郎事公邊が段々
御手廻り候事ヲ申出、右々四月中旬より五月上旬迄之成就可致、左候へハ安心と申事と、
貴君より後閑へ之御咄し之、老人道公、其内之存意通り之可相成時節ヲ相待候様と之欺
被仰候事と、何とやらん符合致し、水へ
勅諭之内謀欺又之
殿下ヲ退ケ候巧之おも有之欺之被存、御書中之安ん心ハ仕候へ共、色々心之懸り事之

萬延元年閏三月

二〇七

(ii-ke#26, p207)

Missing character

本年正月大津
ノ商家ノ夫婦
養子トナル

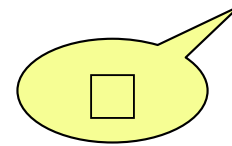
別紙ノ通り太
米藏仙助ヘ書
狀遺ハス

右書狀別紙ノ
御沙汰書寫ハ
御山城下町醫
師鈴木玄道ヨリ
借受シ由出
所ハ不明ナリ

御沙汰書寫ハ
仙助養父ヘ預
置ク

御沙汰書寫仙
助養父ヨリ
流布セシナラ

ね入 〔虫損、置候力〕
□□□旨、



其段父太米藏方ね去冬申遣、其後返書無之内、當正月十三日日柄宜候付、俄之夫婦養子罷
越居候処、當正月晦日附父太米藏方之書狀端書之亞墨利加國之模様之儀申越、此者よりも
心得之可相成義□可申遣旨申越候付、當三月十一日之書狀之彦根候一條□宿旅人も通行
勘く商賣不景氣國許如何可有之哉之旨申遣候付、其續を以別帙之通三月廿七日附并聞三月
二日附之書面兩通之申越候義之、右之外何等之儀も右一件之義之文通仕候義無之旨申立、
尤御沙汰書犬山城下町醫師鈴木玄道より借受候と計之、お頓と出元も不申越、乍然廿七日附
之方之有之通名古屋之お柳梅等□出来候趣之付、自然夫等之邊□出来候儀之、可相成之哉
難計候得共、二日附之方之尙重便可申遣と御坐候付、後便到來も仕候ハ、可相分故之旨申
立、尤右書之當月十三日比著仕候之寸、御沙汰書之方之養父佐吉に讀聞せ本帙預置、廿
七日附之方之此もの所持之品物之内ね入□□旨、然ル処右御沙汰書養父佐吉去十七日彦根
他家運送問屋山岡屋又十郎手代庄七と申ものね見せ候処、直様差歸候付、翌十八日當津町
代矢嶋□五郎方へ日々被雇罷越候上西八町近江屋定八と申ものへ爲見候由之付、夫等より

大津上木八町
荒物屋謹言 荷物御
和泉屋 佐吉
妻 五十三子
とみ 五十三子

萬延元年閏三月

三二一

(ii-ke#26, p211)

Break and adjustment

(巻紙)
 上方警備儀重
 トナル由文
 ノ事ト申口
 伏見大坂表
 江口吟味申
 口ザル御申
 ラザル御申
 下見ノ手柄ナ
 長岡宿ニテ大
 御儀ノ由速急
 家應ノ中ニテ

三五 閏三月二日 彦根藩士長野義言書狀(案) 九條家家
 士高田龍章宛

追日暖相成候、先以
 兩御所様益御機嫌能成恐悦至極奉存候、
 貴館彌御安泰御勤務之條奉賀候、然先頃上方之模様深奉案思候、御手當方等追々御嚴
 重相成候由承之、第一安悦此事之御奉候、扱亦於伏見金子孫二郎申口并去月廿三日於大坂表
 三人自殺之次第、同日兩人被召捕夫々申口當御吟味之趣と同様之次第、御手當方等御手當
 今暫其儘相成居候ハ、猶如何様之大變ヲ仕出し候哉も難計之度、
 大十等御手先之人々事馴、扱群之働ニお手易隠謀露顯之證ヲ被出、御當地ニおも近々御手當
 御嚴重相成候事故少しも、安心仕候、此節又々水戸街道長岡宿ニお天狗連集會有之、何敷先
 月三日同様之風妨可致之企有之趣相聞、旁以是迄之通御所置方遅々相成候ハ片時も安地ニ

萬延元年閏三月 一四五

(ii-ke#26, p145)

\左注{加納救匡、京\{都}}

\左注[0mm][1.25mm]{東町奉行…同心}

全(酒井忠義)御諸司始、(小笠原長常、京都西町奉)加・渡・(加納救匡、京都)
 大十等御手先之人々事馴、(行、關行萬、京都東町奉行)扱群之働ニ手易(東町奉行與力、渡邊金三郎、京都西町奉行與力、大河原十藏、京都東町奉行同心)

\右注[0mm][2.25mm]{ (小笠原長常、京\{都}西町奉)}

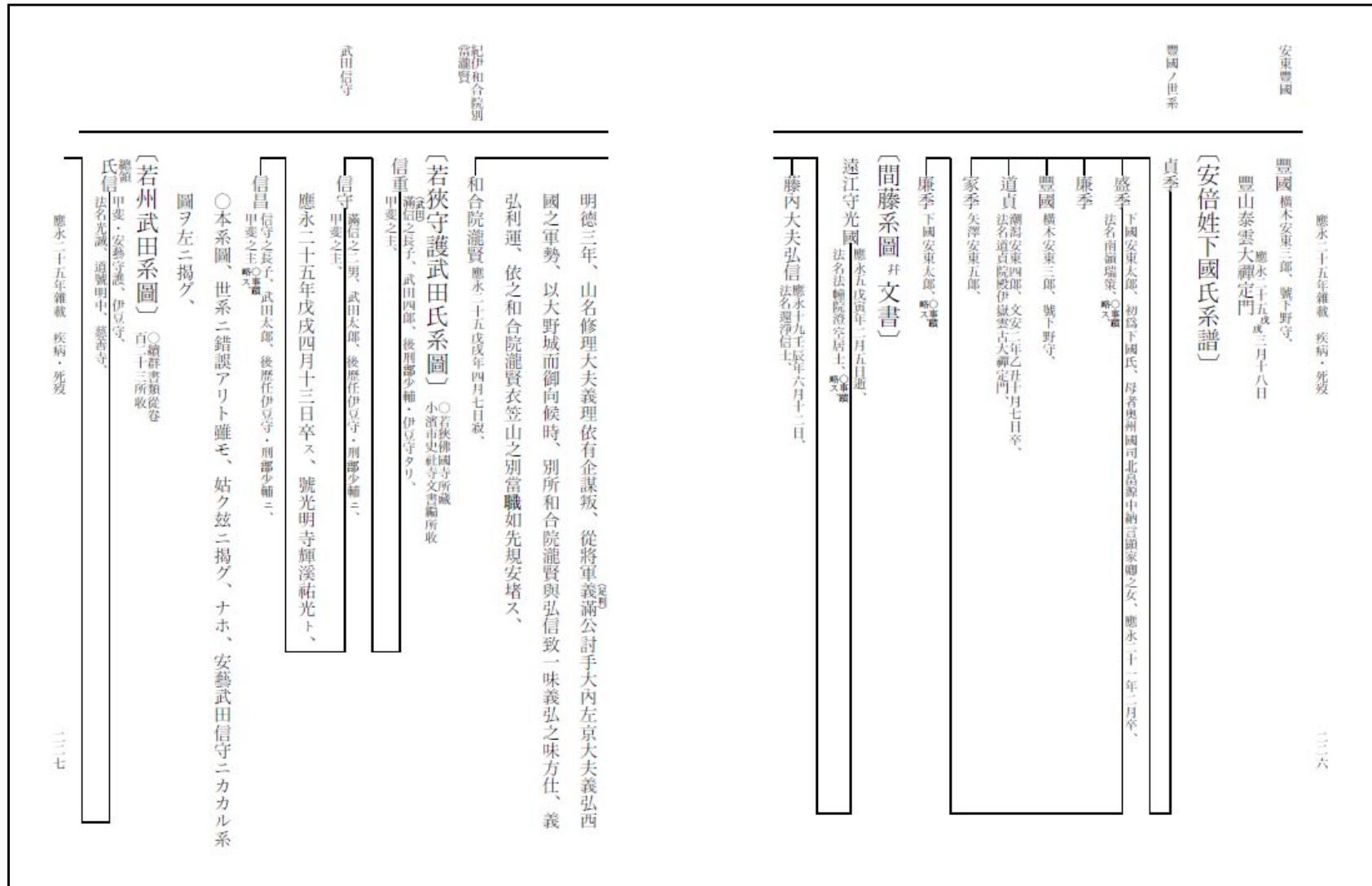
\右注{行・\{関}行為、…}

Frequency of use

li-ke #26
349pages

macro	count(break)	per page	% of break
\書状	127	0.36	
\按文	53	0.15	
\頭注	1347(86)	3.85	6.3%
\右注	1622(91)	4.65	5.6%
\左注	580(17)	1.66	2.9%
\追記	537	1.53	
\○	29	0.08	
\抹消	356	1.02	
\囲み	24	0.06	
\アミゲタ	11	0.03	
□	24	0.06	

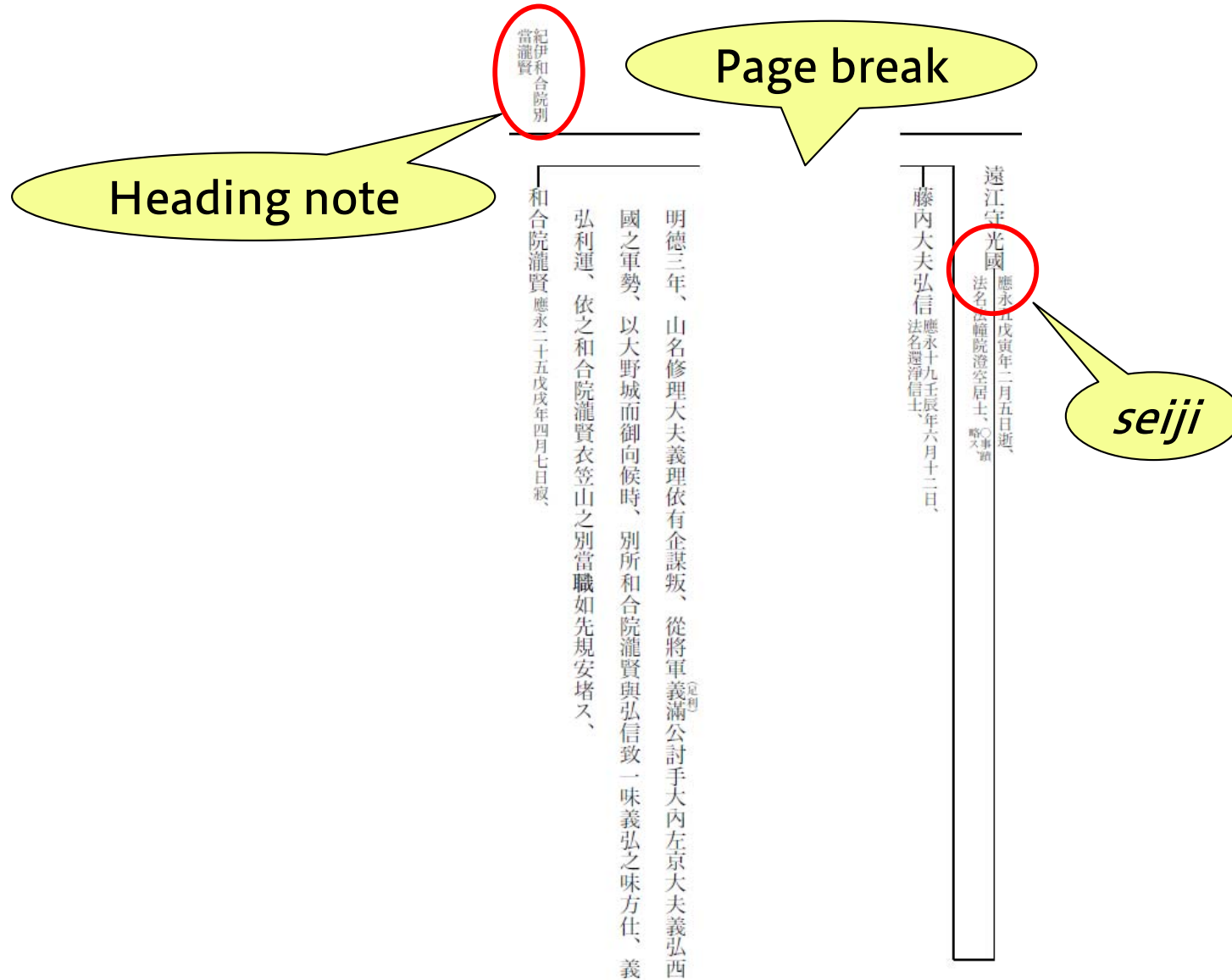
Family tree (example)



東京大学史料編纂所「大日本史料 第七編之三十二」東京大学出版会, 2011, pp.226-227.

Historiographical Institute (Shiryō Hensan-jo), The University of Tokyo, "Dainihon shiryō Vol.7 #32", University of Tokyo Press, 2011, pp.226-227.

Requirements



Make as ...?

Requirements	EPS	TeX picture
<i>Seiji, Hentai-gana, ...</i>	OK	OK
heading note (margin note)	NG	NG
page break	NG	NG

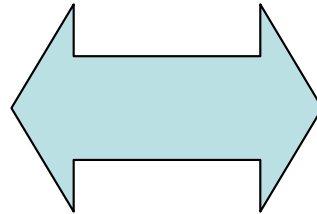
not picture, but lines

紀伊和合院別當瀧賢

和合院瀧賢 應永二十五戊戌年四月七日歿、
弘利運、依之和合院瀧賢衣笠山之別當職如先規安堵ス、
國之軍勢、以大野城而御向候時、別所和合院瀧賢與弘信致一味義弘之味方仕、義
明徳三年、山名修理大夫義理依有企謀叛、從將軍義滿足利公討手大内左京大夫義弘西
藤内大夫弘信 應永十九壬辰年六月十二日、
法名還淨信士、

遠江守光國

應永五戊寅年二月五日逝、
法名法輪院澄空居士、○事類
略ス



紀伊和合院別當瀧賢

和合院瀧賢 應永二十五戊戌年四月七日歿、

弘利運、依之和合院瀧賢衣笠山之別當職如先規安堵ス、
國之軍勢、以大野城而御向候時、別所和合院瀧賢與弘信致一味義弘之味方仕、義
明徳三年、山名修理大夫義理依有企謀叛、從將軍義滿足利公討手大内左京大夫義弘西
藤内大夫弘信 應永十九壬辰年六月十二日、
法名還淨信士、

遠江守光國 應永五戊寅年二月五日逝、
法名法輪院澄空居士、○事類
略ス

Conclusion

遠江守光國 應永五戊寅年二月五日逝、
法名法輪院澄空居士、○尊嚴

藤内大夫弘信 應永十九壬辰年六月十二日、
法名遷淨信士、

明徳三年、山名修理大夫義理依有企謀叛、從將軍義滿定判公討手大内左京大夫義弘西

國之軍勢、以大野城而御向候時、別所和合院灌賢與弘信致一味義弘之味方仕、義

弘利運、依之和合院灌賢衣笠山之別當職如先規安堵ス、

紀伊和合院別
當灌賢

和合院灌賢 應永二十五戊戌年四月七日歿、

有之、右故是迄御所置方甚六ヶ敷有之事は愚存 外國 只今惡謀申立之種と相成候
故を是迄御承知之御事、此度亦夷船打拂ヲ 長岡之參會、

既 既

江 江
江 江
え え
衣 衣

布 布
以 以
舟 舟